

令和6年度「一市町村民会議一運動」活動紹介

土岐市青少年育成市民会議

【令和6年度土岐市青少年育成市民会議のテーマ】

昨年度、事業精査の契機として、従前事業をそのまま再開するのではなく取捨選択し大規模な改革を行った。今年度はこれを継続した上で、より青少年が参画する施策を講じた。

令和6年度土岐市青少年の主張大会の紹介

令和6年6月9日（日） 13：30 開始 16 時終了

土岐市文化プラザ サンホール

1. 青少年と多世代の参画

当市の主張大会の特徴は、多世代（小学生から高校生）を主張発表者として開催している点である。出場者ではないが、昨年度、高齢者学習支援事業『はなの木大学』に大会看板の作成を依頼。同事業の全体学習にも指定をし、より幅広い世代が参画する大会へと発展した。

今年度は、大会内アトラクションを地域の公民館で活動する社会教育関係団体「上肥田音頭子供保存会」にも依頼。未就学児から大学生まで所属している団体ということもあり、より幅広い世代の青少年の参画を促すことができた。

2. エンターテインメント性

大会内アトラクションには、昨年度から市教育文化賞受賞者に出演をお願いしている。昨年度は、ピアノで全国大会に出場者した小学生2名に演奏を依頼した。今年度は、上記でも紹介した社会教育関係団体「上肥田音頭子供保存会」と教育文化賞（スポーツ賞）を受賞した縄跳び競技「ダブルダッチ」で世界大会に出場した中学生チーム「Lune」に出演を依頼した。

昨年度は芸術性に特化したアトラクションであったが、今年度は、未就学児が頑張って見様見真似で踊る愛くるしい姿や、ダブルダッチの高度で磨き上げられた技術が披露され、会場中が笑顔になったり、「おおー」という歓声で包まれたり、観覧者の様々なリアクションを見ることができた。



3. 表彰記念品の充実

主張発表者の表彰記念品は、昨年度、表彰楯からオリジナルデザインの美濃焼製ストローとコップのセットに変更。昨年度は1色のみだったが、今年度は3色準備し、出場者に大変好評であった。

施策の効果：大会にユーモアが加わったと関係者から好評価

現状の課題：年々回復してきているが観覧者不足が未だに課題